

第1号議案

平成30年度事業報告書

特定非営利活動法人日本水中ロボネット

1 事業の成果

水中ロボットを使った競技会等を通じて、高校、大学等における水中ロボット工学への取り組みを支援した。このことにより、次世代の水中ロボット工学及び水中工学に関する研究開発及び教育の推進に寄与した。本年度は、B&G 財団が開催する東京湾海洋体験アカデミーに協力し、水中ロボット製作教室を同アカデミーの中で開催した。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 水中ロボットを使った競技会、水中ロボット工学及び水中工学の講習会、展示会及びその他各種イベントの企画、開催及び運営に関する事業

ア Underwater Robots Competition への協力

- ・内 容 国際学術会議 OCEANS' 18 MTS/IEEE Kobe / Techno-Ocean 2018 で行われた自作の水中ロボットによる競技会に協力した。
- ・日 時 平成30年5月27日(日)
- ・場 所 神戸市立ポートアイランドスポーツセンター
- ・従事者人員 7人(他当NPO以外の従業者人員6名)
- ・受益対象者 小学生、中学生、高校生、大学生、大学院生、教育関係者、一般社会人
- ・参加者数 300名(内関係者は15名)
- ・支出額 0千円

イ '18水中ロボットコンベンション in JAMSTEC ~海と日本プロジェクト~ の開催(日本財団助成事業、4年目)

- ・内 容 自作の水中ロボットによる競技会(フリー部門)とワークショップをおよび水中ロボット工作教室(ジュニア部門)を実施した。AUV部門は上記のUnderwater Robots Competition で実施した。
- ・日 時 平成30年8月24日(金)~26日(日)
- ・場 所 国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部
- ・従事者人員 11人
- ・受益対象者 中学生、高校生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・参加者数 233名(3日間延べ418名(内関係者延べ66名))
- ・支出額 2,562千円

ウ 水中ロボットセミナーの開催

- ・内 容 水中ロボットおよび関連する海中技術に関するセミナーを開催した。
- ・日 時 平成30年8月25日(土)
- ・場 所 国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 中学生、高校生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・参加者数 80名以上(内関係者は6名)
- ・支出額 0千円

エ 第4回沖縄海洋ロボットコンペティションの後援

- ・内 容 第4回沖縄海洋ロボットコンペティションを後援した。
- ・主 催 第4回沖縄海洋ロボットコンペティション実行委員会
- ・日 時 平成30年10月13日(土)～14日(日)
- ・場 所 宜野湾新漁港(競技会場)、宜野湾マリン支援センター(‘ワークショップ会場)
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 高専生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・支 出 額 0千円

② 水中ロボット工学及び水中工学に関連する情報収集、調査及び研究に関する事業

ア 水中ビークル・フリーミーティングへの支援活動

- ・内 容 水中ロボット／水中ビークルの水中自由試験・情報交換
- ・日 時 1月21日(日)、2月18日(日)、3月18日(日)、5月20日(日)、12月16日(日)
- ・場 所 国立研究開発法人海洋研究開発機構横須賀本部他
- ・従事者人員 7人
- ・受益対象者 高校生、大学生、教育関係者、一般社会人
- ・受益対象者人数 延べ84名
- ・支 出 額 161千円

③ 水中ロボット工学及び水中工学に関する普及、啓発及び推進に関する事業

ア B&G財団主催東京湾海洋体験アカデミーへの講師派遣

- ・内 容 B&G財団(公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団)からの依頼により、同財団が主催する東京湾体験アカデミーの中で行った水中ロボット製作教室に講師と講師補佐各1名を派遣するとともに、機材の準備等に協力した。
- ・日 時 平成30年8月6日(月)～7日(火)
- ・場 所 大房岬自然の家
- ・従事者人員 2名
- ・受益対象者 小学生、中学生
- ・参加者数 80名(関係者を除く)
- ・収 入 額 651千円

イ Maker Faire Tokyo 2018 への出展

- ・内 容 小型水中ロボットなどを出展し、小型水槽での操縦体験やVRゴーグルによる水中映像体験を提供した。
- ・日 時 平成29年8月4日(土)～5日(日)
- ・場 所 東京ビッグサイト
- ・従事者人員 2名
- ・受益対象者 小学生、中学生、高校生、大学生、一般社会人
- ・支 出 額 36千円

(2) その他の事業 該当なし

(3) 法人の運営

① 広報活動

ア ホームページの公開継続と更新

- ・内 容 ホームページ、フェイスブック、ツイッターを更新し、最新の情報を発信した。
- ・日 時 通年
- ・従事者人員 3人
- ・支 出 額 5千円

② 会員の異動

- 正会員数 期初：33名、現在：34名（入会2名、退会1名）
- 賛助会員数 期初：3社、現在：3社

③ その他

ア 助成金・協賛金

日本財団、日本船舶海洋工学会、IEEE OES 日本支部、TON、MTS 日本支部から助成を頂いたほか、松山工業(株)と(株)FullDepth から'18 水中ロボットコンベンション in JAMSTEC ～海と日本プロジェクト～への協賛金を頂いた。

イ 技術指導

当 NPO 会員の山縣氏が TEPIA（一般財団法人高度技術社会推進協会）からの依頼により、盛岡市立高等学校（岩手県）自然科学部が行った龍泉洞探査用水中ロボットの開発に技術的アドバイスを行った。同ロボットは、TEPIA のチャレンジ助成事業に採択されたもので、実際に龍泉洞内からの試料採取に成功しロボコンマガジン賞を受賞した (<https://www.tepia.jp/tcs/report/394>)。

ウ 広報

当 NPO 会員の山縣氏がロボコンマガジンの取材に対応し、ロボコン参加者のその後に関する記事が掲載された。（『ロボコン OB・OG の履歴書 山縣広和』、ロボコンマガジンの 2018 年 11 月号）